

## 第2章 地域の概況

対象道路事業実施区域及びその周辺地域を「調査区域」とし、調査区域における社会的環境及び自然的環境の状況について以下に整理した。調査区域は、情報を調査区域で分割できない場合は、関係地域である、1市(中津川市のうちの旧山口村域)2町(上松町、南木曾町)1村(大桑村)の自治体ごとに分割した。

なお、調査区域は、図 1.6-1に示した。

### 1 社会的環境

#### 1) 人口及び産業の状況

##### (1) 人口の状況

平成2年から平成15年の人口の経年変化をみると、長野県全体の人口が増加傾向にあるのに対し、関係地域での人口は減少傾向にある。

##### (2) 産業の状況

関係地域の産業の状況を産業別就業人口からみると、第2次産業と第3次産業が多い。平成2年から平成12年までの経年変化で、第1次産業人口及び第2次産業人口は減少しており、第3次産業人口は増加傾向にあったが、平成7年から12年にかけては、ほとんど変わっていない。

#### 2) 交通の状況

##### (1) 交通網の状況

調査区域では、木曾川沿いに国道19号及びJR中央本線が位置し、蘭川沿いに国道256号が位置している。特に国道19号は、地域内交通、通過交通(広域交通)を担う重要な路線として位置づけられる。

##### (2) 交通量の状況

調査区域では、国道19号及び一般県道南木曾停車場線の混雑度が高い傾向にあり、国道19号については大型車混入率も高い傾向にある。

##### (3) その他

###### ア 通行止めの発生状況

国道19号の通行止めは、年間30件以上発生しており、増加傾向にある。また、通行止め平均時間は2時間以上となっている。

なお、近年の土砂崩落による通行止めの最長時間は、平成13年に108時間を記録している。

###### イ 中央道社会実験

国道19号から中央自動車道への利用転換を図るため、国道19号を利用する大型車・特大車に対して、中央自動車道の諏訪インターチェンジ及び長野自動車道岡谷、塩尻インターチェンジから中央自動車道の中津川インターチェンジ間の高速料金を、平成16年9月1日から11月30日までの3ヵ月間半額にする社会実験が実施された。

その結果、大型車通行量の変化は前年同時期に比較して、有意な差は見られなかった。

### 3) 土地利用の状況

対象道路事業実施区域は、針葉樹、広葉樹からなる林地及び木曾川周辺の農地、JR 中央本線の駅周辺を中心とした住宅地で構成されている。

### 4) 環境保全上配慮すべき施設の状況

#### (1) 教育施設等

調査区域には、幼稚園 2 施設、小学校 6 施設、中学校 4 施設、高等学校 1 施設の合計 13 の教育施設がある。

このうち、対象道路事業実施区域には、小学校 2 施設(大桑小学校、読書小学校)、中学校 2 施設(大桑中学校、南木曾中学校)、高等学校 1 施設(蘇南高校)の合計 5 の教育施設がある。なお、図書館は存在しない。

#### (2) 医療施設等

調査区域には 7 施設の医療施設があり、このうち、対象道路事業実施区域内には、1 つの医療施設(古根医院)がある。

#### (3) 社会福祉施設等

調査区域には、老人福祉施設が 5 施設、知的障害者援護施設が 2 施設、児童福祉施設が 10 施設、その他の社会福祉施設が 5 施設の合計 22 施設の社会福祉施設がある。

このうち、対象道路事業実施区域には、特別養護老人ホーム 1 施設(木曾あすなろ荘)、老人デイサービスセンター 1 施設(南木曾デイサービスセンター)、保育所 1 施設(須原保育所)、障害者等共同作業所 1 施設(障害者等共同作業訓練所施設ひだまり工房)の合計 4 箇所に社会福祉施設がある。

#### (4) 住宅・集落等の概況

調査区域には、一般国道 19 号をはじめとする道路沿道及び JR 中央本線の駅周辺を中心に住宅等が存在している。

対象道路事業実施区域においては、須原駅、大桑駅、野尻駅、南木曾駅を中心に住宅地を形成している。また、観光名所である阿寺溪谷、柿其溪谷、旧中山道沿いの妻籠宿には、宿泊施設等を含めた住宅が点在している。

### 5) 水域の利用状況

#### (1) 河川、湖沼及び地下水の利用状況

関係地域における利水状況は、河川を取水源としているほか、上松町では深井戸及び湧水等を、南木曾町では伏流水及び湧水等を、旧山口村では伏流水及び深井戸を取水源としている。

また、調査区域には 57 地点の取水源があるが、対象道路事業実施区域には取水源は存在しない。

#### (2) 水面利用の状況

木曾川及びその支流すべてにおいて漁業権が設定されている。木曾川水系の漁獲状況は、主にサケ・マス類、ウグイで占められている。この他に、ワカサギ、アユ、コイも漁獲されている。

## 6) 環境整備の状況

### (1) 上水道の整備状況

調査区域における上水道の整備状況は、上松町でやや普及率が低くなっているが、大桑村、南木曽町ではほぼ 100%の普及率である。

### (2) 下水道等の整備状況

長野県全体における下水道等の普及率は、87.7%であるが、大桑村で 76.7%、南木曽町で 64.6%と長野県全体の総人口普及率に比べ低い結果となっている。

### (3) 廃棄物施設の状況

#### ア 産業廃棄物

対象道路事業実施区域には、木くずの破碎施設(大桑村)、木くずの焼却施設(南木曽町)、がれき類の破碎施設(南木曽町)が 1 施設ずつ設置されている。

#### イ 一般廃棄物

対象道路事業実施区域には、焼却灰の埋立が終了した最終処分場が 1 施設(大桑村)、ガラス類の埋立処分場が 1 施設(南木曽町)存在している。

### (4) 公害の苦情の状況

最近 4 年間の関係地域における公害の苦情件数の状況は、平成 13 年度に旧山口村で 1 件発生しているが、ここ 3 年間では発生していない。

## 2 自然的環境

### 1) 気象の状況

木曽谷の気候は、木曽川に沿った気候で、伊那谷の気候と比べて山地的で気温が低く、降水量がやや多いのが特徴である。また、木曽山脈の山岳の気候は、降雪や降雨が中部地方ではやや少ないのが特徴となっている。

調査区域には南木曽気象観測所と須原気象観測所があり、南木曽では年平均気温が11.2、年間降水量が2,491.6mm、須原では年間降水量が2,251.3mmとなっている。

### 2) 水象の状況

調査区域は木曽川水系に含まれ、木曽川に島田川、柿其川、阿寺川、滑川、小川等の32本の一級河川が流入している。

なお、調査区域に存在する大規模な湖沼は、木曽川の山口ダム、読書ダム等のダム湖のみである。

### 3) 地象の状況

#### (1) 地形の状況

調査区域においては、中央を木曽川が南北に貫流し、その東側の木曽川左岸側を木曽山地が、西側の木曽川右岸側を阿寺山地の大起伏山地がそれぞれ山地を形成している。木曽川の左岸と右岸側では地形が異なり、左岸側は摺古木山、南駒ヶ岳、空木岳、木曽駒ヶ岳へと続く2,000~3,000m級の中央アルプスから、400~800mの木曽川河岸までの高低差が激しい急傾斜である。右岸側の地形は、標高1,000m~1,700mの比較的平坦な地形面群が存在し、左岸側に比べ緩傾斜である。

また、台地及び低地はほとんどなく、木曽川沿いにわずかに点在するのみである。

#### (2) 地質の状況

左岸側の地質は、花崗岩質岩石の深成岩がその大部分を占め、北部の一部に変輝緑岩類がみられるものの、比較的単一といえる地質構造であり、地質による差別浸食の起こりにくい地層である。右岸側の地質は、左岸側同様に花崗岩質岩石の深成岩がその大部分を占め、次に砂岩、泥岩等の堆積層、流紋岩等の火山岩が占めており、新旧地層が複雑に介在し、差別浸食の要素が整っている。

また、氾濫原堆積物が木曽川に沿って構成されている。

#### (3) 土壌の状況

調査区域は北アルプス山地とともに、ポドゾル<sup>a</sup>が多いのが特徴であり、この原因は、降水量が多く、御岳、木曽山脈等をはじめ全般に低温多湿の気候下にあり、ヒノキを主とする針葉樹林におおわれていること、花崗岩その他の酸性岩が広く分布すること等による。丘陵帯上部から山地帯下部では、斜面の主要部を褐色森林土壌が占め、沢沿いには湿性褐色森林土壌が多く、尾根筋にはしばしば乾性褐色森林土壌がみられる。

<sup>a</sup> 寒冷で腐食層が発達しにくいところで生成される土壌の一種

#### (4) 災害履歴の状況

長野県土木部砂防課資料によると、平成 15 年は、融雪・豪雨等により県下で 26 件の土砂災害報告を受けた。この中で、特に被害が著しく次期降雨により土砂災害を及ぼすおそれのある 3 件が災害関連緊急事業として採択された。また、平成 16 年には台風 22 号により、地すべりが 4 件、がけ崩れが 6 件、台風 23 号により、土石流が 32 件、地すべりが 84 件、がけ崩れが 33 件発生している。

調査区域では、土砂災害の報告はされていない。

#### 4) 動植物の状況

##### (1) 植物の状況

###### ア 植物相の概要

調査区域は長野県南西部に位置し、植生帯としてはヤブツバキクラス域からブナクラス域までの植物を含んでいる。

低山帯では二次林を構成するコナラ、クリ、ミズナラ、カスミザクラ等の落葉広葉樹が多く生育している。区域南部の丘陵帯から続く低山帯ではヤブツバキクラス域の植物を多く含み、アラカシ、シラカシ、ヤブツバキ、カヤ等の常緑広葉樹が多く、草本類ではカヤラン、ヨウラクラン等の着生ランがみられる。また、ヤブツバキクラス域上部からブナクラス域ではモミ、ツガ等の温帯性針葉樹が、またブナクラス域を中心にヒノキ、サワラが広く生育し、コウヤマキ、アスナロ等が混生している。また、木曽川沿いの河原ではカラハンノキ、岩上にはナメラダイモンジソウ、サツキが生育している。

モザイク状に分布する植生帯と複雑な地形に加え、植物区系としては日本海地域、関東地域、フォッサ・マグナ地域、美濃三河地域、襲速紀地域の 5 地域の要素が入り混じり、また、特産する地域固有種も多く見られ、多様な植物が生育している。

###### イ 植生の概要

調査区域は、海拔 500m～1,500m の落葉広葉樹林帯と称せられる低山帯であり、木曽川に沿ってクリ - ミズナラ群落、カスミザクラ - コナラ群落等の落葉広葉樹林が多くを占めている。ただし、木曽の低山帯には亜高山帯に主に生育するヒノキ群落やスギ・ヒノキ・サワラ植林、カラマツ植林、アカマツ群落等の常緑針葉樹林も多く生育しており、ヒノキ林の斜面下部にアカマツ、モミ等が、斜面上部にウラジロモミ、コメツガ等が生育している。

##### (2) 動物相の状況

###### ア 哺乳類の概要

関係地域に生息するとされる哺乳類としては、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、ニホンザル、ニホンイノシシ、ホンドキツネ、ホンドイタチ、ムササビ、アナグマ、ノウサギ、ハクビシン、ホンドタヌキ、ネズミ類、モグラ類等があげられ、低地～亜高山帯にみられる豊かな哺乳類相であるといえる。

###### イ 鳥類の概要

関係地域に生息するとされる鳥類としては、オオルリ、アオバズク、アカショウビン、アカハラ、クマタカ等、山地の森林にみられる鳥類相であり、猛禽類も生息することから良好な生息環境が整っているといえる。

## リ 両生類・爬虫類の概要

関係地域に生息するとされる両生類・爬虫類としては、両生類については、カジカガエル、ヤマアカガエル、イモリ、クロサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ等が、爬虫類についてはマムシ、ジムグリ、ヤマカガシ等があげられ、清流が流れる山間部にみられる両生類・爬虫類相であるといえる。

## I 昆虫類の概要

関係地域に生息するとされる昆虫類としては、ハンミョウ、マイマイカブリ、ゲンゴロウ、オオミズスマシ、ミヤマクワガタ、ゲンジボタル、オオスズメバチ、クロオオアリ、ニイニイゼミ、スズムシ、マツムシ、オニヤンマ、モンシロチョウ等、多様な昆虫類があげられる。

## オ 魚類の概要

関係地域に生息するとされる魚類としては、ヤマトイワナ、アマゴ、アカザ、ドジョウ等があげられ、丘陵地から山地の山間河川にみられる魚類相といえる。

## 5) 景観・文化財の状況

### (1) 景観の状況

調査区域には、中央を木曾川が流れ、その左岸側には中央アルプス木曾駒ヶ岳がそびえ、右岸側には樹齢三百年以上の木曾ヒノキの天然林等、自然豊かな環境が残る。特に小野の滝や田立の滝、阿寺溪谷等の景観資源として良好な滝や溪谷を多数有し、これらを観光するための登山道や遊歩道がいくつも設置されており、素晴らしい景観を楽しむことができる。

また、江戸時代において、中山道を通じて旅人が通っていたことから、妻籠宿周辺には数多くの歴史的・文化的な史跡や歴史的建造物等が存在し、温かく懐かしい旅情ある風景が、現在においてもそのままの姿で残されており、観光客の心を和ませる雰囲気がある。

### (2) 触れ合いの活動の場の状況

調査区域には、山林、河川、公園、温泉、遊歩道等、人と自然が触れ合うことのできる環境や場所が多く存在する。特に赤沢自然休養林や阿寺溪谷、中部北陸自然歩道等はこの地域を代表するものであり、観光資源であるとともに、重要な触れ合い活動の場となっている。

### (3) 史跡・文化財の状況

調査区域には定勝寺、白山神社、南木曾町妻籠宿保存地区、池口寺薬師堂等、多くの史跡・文化財が存在している。